

作戦会議の進め方（プロセス）

作戦会議は、チーム支援の柱となります。短時間で、焦点が絞られ、具体的な対応策が得られるような話し合いにするため、司会者や参加者が、作戦会議の進め方（プロセス）を共有することが大切です。

0 ルールやモチベーションの共有

この作戦会議の目的や意義を共有し、モチベーションを高める。
この作戦会議の時間、話し合う内容、発言順序等のルールを共有する。

【ルールの確認事項】

- (1) 作戦会議へ積極的に参加する
- (2) 参加者がお互いに尊重し合う
- (3) お互いの意見を傾聴し、否定しない
- (4) 時間を考慮して発言する

1 現状と経過について情報を共有する

担当が現状やこれまでの経過を説明し、参加者がそれを補足する。
事実と判断（理解・推測）を分けて説明する。
次の点をポイントにして説明する。

【説明のポイント】

- (1) いつ、どんな出来事があったのか（時間を追って変化を把握する）
- (2) その出来事を、誰が、どのように受け止めたのか
- (3) その出来事に対し、誰が、どのような対処行動をとり、その結果はどうだったか
- (4) 現在、誰が、どのような苦戦状況の中にあるのか
- (5) 苦戦状況の中で、うまくいっていることは何か

状況をさらに理解するために質問し合う

2 見立てる

苦戦状況を見立てる

- ・ 誰が、誰との、どのような関係性の中で、どのような苦戦をしているのか。
- ・ 関係者は、それぞれどのようなストーリー（文脈）の中で動いているのか。
- ・ それぞれのストーリー（文脈）には、どのようなズレがあるのか。
- ・ 苦戦に結びつく対処行動（パターン）は何か。

お互いのかかり合い（関係性）の中で起こっている出来事から、苦戦の起こるパターンを見つけ、そのパターンを作り上げているストーリー（文脈）を変える。

誰もが「解決」や「接点」を目指してかかわっている。関係者は、その機能を悪くしようとして動くはずはないと考える。従って、お互いに本当は何を求めているか確認し、その求め方のズレを見つけ、そのズレが同じパターンで繰り返されていることに気づく。そのズレの中でも、共通している点を発見して共有し、同じ方向性でやれることを考えていく。

資源を見立てる

- ・自己資源は何か。それをどのように活用すればいいか。
- ・他者資源や環境資源は何か。それをどのように活用すればいいか。
- ・これまでどのようにして苦戦状況乗り越えてきたか
(効果的な対処行動は何か、悪化させなかった方法は何か)

解決に役立つストーリーや苦戦のパターンを変える方法を見立てる

- ・ストーリー(文脈)を修正して、ポジティブなストーリーを作る(仮説的に)。
- ・パターンを変えるには、どこにどう働きかければいいのか考える。
- ・問題解決に向けたアイデアを出し合う(ブレインストーミング的に話し合う)

こんな風に考えてみると、教師が理解しやすいという仮説を考える

初めは、簡単・大まかな仮説を考える

例: 「安心」を求めて「症状」が出る

「不安」だから「不適応行動をする」

「エネルギーが低下」しているから「エネルギーを使う場面を避ける」 など

不適切な仮説は、即刻書き換える。

何度も手を洗う子 = 「強迫神経症の子」という理解だけではなく、

「¹夫婦の不仲 ²子どもとしての不安・父母への怒り ³不安や怒りを表現できない ⁴自分に向ける ⁵極度の不安 ⁶脅迫的な手洗い行動 ⁷一時的安定」とパターンで表現できる。

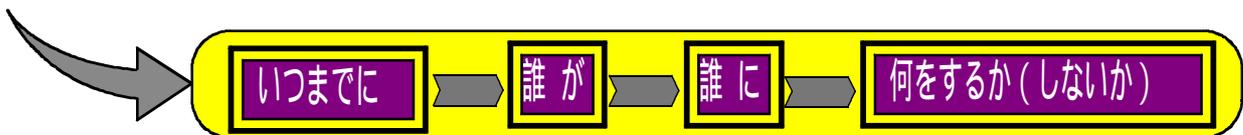
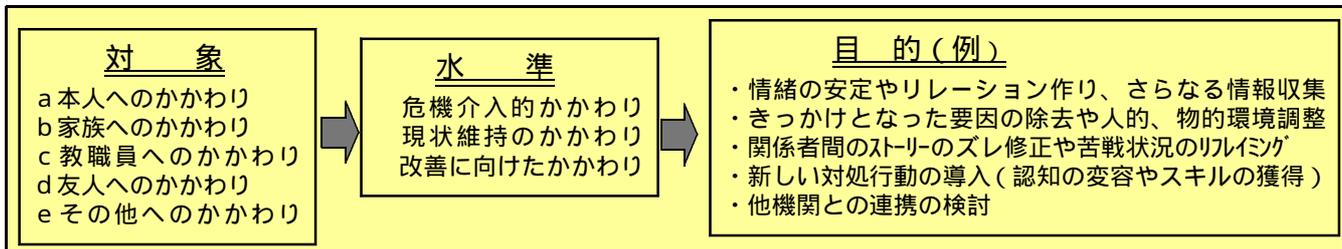
このように表現すると、1~7のどれに働きかけ、パターンを切り崩すか考えていける。

3 対応策を検討・選択する

対応策を絞り、優先順位を決める。

対応策について、誰が、誰に対して、いつからいつまでに実施するか、役割分担を決める。

次の作戦会議の日時を決める



コンサルテーションの意義(コンサルタト=相談係の先生、コンサルティ=担任、と読み替えて)

- ・コンサルタントと話をすると、コンサルティのことがとてもよくわかるし、これまでの見方とは違う新しい面がいっぱい見えてくるようになったということgが大切。
- ・コンサルティが、自分のみでいた児童生徒像がより広く豊かに見え出すと、これまでの経験やノウハウが使えるようになり、自然といろいろな対応策が考えられるようになる。
- ・コンサルタントは、コンサルティが対象となる児童生徒をより豊かに意味づけられるように支援する
- ・コンサルテーションの仕事の90%は、対象となる児童生徒の理解を広げること。
- ・「この子をどうしたらよいのでしょうか」と言われたら、あわてて対策を出さないといけないと思いがち。すぐどうしたらいいかを話し合う前に、対象となる児童生徒の理解を広げること。

【参考文献】 ・山本一郎『危機介入とコンサルテーション』ミネルヴァ書房 2000

・石隈利紀・田村節子(2003),『石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 学校心理学・実践編』, 図書文化